

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691900017		
法人名	医療法人 守章会		
事業所名	グループホーム リリーハウス		
所在地	徳島県三好郡東みよし町中庄538番地1		
自己評価作成日	令和5年7月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和5年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、吉野川近くに位置し自然豊かで四季の風景を目にすることができる。周辺を散歩したりして季節を感じることができる。ユニバーサルデザイン適合証を受け、安全で安心し、快適に利用できる施設である。近くに母体の法人が運営する医療機関があり、体調が急変した際には、24時間対応可能な体制を整備している。院長の訪問や週3回リハビリに通い、必要な時には受診している。明るく穏やかな環境のなかで、利用者一人ひとりの趣味の継続を支援し、家族様との面会方法を工夫する等楽しみを持つよう支援している。毎日、リハビリ体操や足踏運動等を行い、利用者様が自立支援できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、一級河川沿いの田畑や民家に囲まれた自然豊かな場所に位置している。利用者の尊重や利用者本位の寄りそう支援を目指す理念を掲げ、理念を事業所のあるべき姿として、実践に努めている。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、季節の塗り絵や折り紙等の作品づくりに取り組んだり、中庭や菜園で果物や野菜を栽培し、食事に活用したりして、利用者がいきいきと暮らすことができるよう支援している。ボランティア団体とは、電話で連絡をとるなど、関係が途切れないように努めている。同一法人の運営する医療機関と連携を図り、24時間対応可能な体制を整備し、適切な医療の受診を支援している。職員は、利用者とのコミュニケーションを大切に、一人ひとりの思いに寄りそった支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内に掲示し、毎朝申し送りの際に唱和し職員間で共有を図っている。新採用職員にも理念を伝え、実践に繋げるようにしている。	事業所では、理念を事業所のあるべき姿として捉え、事業所内に掲示したり、朝礼で唱和したりして、共有化を図っている。理念にそった一日の目標を決め、終礼時に振り返りを行うなど、理念の実践に繋げている。パンフレットや重要事項説明書に理念を記載し、地域や家族等に向けて、理念を伝える工夫をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、ボランティアの受け入れ等をし地域との交流をしていた。馴染みの美容師に来訪して頂き、訪問美容をお願いし交流している。	事業所では、日ごろから近隣住民とあいさつを交わすなど、交流している。自治会に加入し、地域の清掃活動に参加している。ボランティア団体とは、電話連絡を行うなど、感染症(コロナ等)の流行下においても、関係が途切れないように工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や施設見学に来られた方に、事業所の取り組みや認知症ケアについて説明を行い、理解が得られるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では、運営推進会議は2か月に1回書面で実施していたが、5月からは対面で行っている。出された意見は、サービスの向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。今年度からは、集合型での会議を再開している。会議には、町関係機関の職員や民生委員等の出席を得ている。事業所の活動状況等を報告し、各委員から意見を得ているが、出された意見や話しあった内容を議事録に記載し、職員間で共有するまでには至っていない。	今後は、各委員から得た意見等を議事録に記載し、職員間で共有することが望まれる。意見等について、職員間で検討することで、さらなるサービスの質の向上に繋がることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市の窓口を訪問して、事業所や利用者状況を伝えたり助言を得る等協力関係を築いている。	職員は、毎月、町の担当窓口や広域連合を訪問し、事業所の現況等を伝えている。町とは、担当課のほか、福祉関係のさまざまな担当者と連携を図っている。地域包括支援センターからは、入居に関する相談を受けるなど、各機関との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束の弊害について話し合い拘束しないケアに取り組んでいる。日中は、ユニットの自動ドアを開放し、自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	事業所では、3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催している。職員が交代で講師を務めるなど、身体拘束に関する理解を深めている。帰宅願望のある利用者への支援など、実情に合わせた支援方法について、職員間で話し合い、利用者の自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員研修で理解を深め、虐待が見過ごされないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で勉強会を行ったりして理解を深め、利用者様が必要な時には活用できる支援も実施している。当事業所にも、制度を利用している利用者がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約を結ぶ時や改定の時には、丁寧に説明をし、内容を理解した上で同意が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所では、日頃の支援のなかで利用者からの意見や要望を聞き取っている。家族様には、電話やお便り等で利用者の様子を報告した際に意見をj得ている。又、窓口には意見箱も設置している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望を聞いている。家族等については、電話や来訪時に話を聞くようjしている。2か月に1回、事業所だよりや写真、メッセージ等を送付し、状況を共有することで、意見を引き出している。把握した意見等は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃の支援のなかで職員の意見や要望を聞き取っている。事務長の来訪時には職員が直接意見などを伝えている。	管理者は、日ごろから職員の意見や提案等を聞いている。毎日の朝礼の際にも、意見等を聞く機会を設けている。事務長が来訪した際に、直接意見等を伝える機会もある。出された意見等は、職員間で検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は個々に目標を立て、実践し達成できるように努力している。職員の資格取得を応援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はコロナ禍であまり参加できなかったが、研修後はミーティングで発表したり報告書にて全員で閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所や外部同業者との交流や運営推進会議で交流する機会を作り、意見や経験をケアに活かして取り組むように心掛けていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で、利用者の不安や困っていることを理解し、生活状態を把握し、安心してより良い信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に、ご家族様と密に連携を図り、安心して要望等が言え、次の段階の相談へ繋げるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、御本人様、御家族様が何が必要かサービスであるかを見極め、柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を築き、安心して穏やかな生活が送れるように努めている。利用者の特技を活かし、個々の得意分野で力を発揮して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や家族様が来訪された際に、何でも話ができる雰囲気を作り、職員と家族様が協力して一緒に支える関係が築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関での面会ではあるが、利用者の家族様や親戚の方が来訪した際は、話が出来るよう支援している。	事業所では、感染症等に配慮しつつ、利用者と友人・知人との面談を支援している。馴染みの商店の菓子を購入したり、地域のカルタで遊んだりして、馴染みの人や場所への思いが途切れることのないよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、共同作業やレク等職員と一緒に行き不安を感じることがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族の方の相談にも応じたり、新たな入居先(施設)にもサービスが円滑に行えるよう情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向等の把握に努めている。意思表示が困難な場合には、家族様から生活歴を伺いつつ本人本位に検討している。	管理者は、利用者とのコミュニケーションを大切に捉え、職員に周知している。日ごろから利用者とのコミュニケーションを図り、思いや意向の把握に努めている。把握した意向等は、申し送りノートに記載するなどして、職員間で共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで、本人様の基本情報や家族様からの情報をもとに自分らしく暮らしていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェック等を行い健康状態を把握している。利用者一人ひとりの生活リズムも把握し、本人様の出来ることに重点を置いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族様等の意見を踏まえた介護計画を作成している。半年ごとの見直しや心身状態の変化に応じて見直し、共有化を図っている。	事業所では、利用者や家族等の希望、利用者の得意分野を反映した介護計画を作成している。医師や看護師、理学療法士等の意見も踏まえつつ、リハビリテーションを取り入れるなど、心身機能の維持・向上にも努めている。定期・随時に、計画の見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルがあり、日々の申し送りを通して情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週2~3回院長の訪問があり、健康チェック等を行っている。本人様の心身状態や家族様の状況により、臨機応変なサービス支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍では、地域との交流は行えていない。運営推進会議に参加して頂くことで、地域の情報や運営に関する助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診する際は、家族様の協力を得ている。医療機関との連携を図り、緊急時にも対応可能な医療体制を整備している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医の受診の際は、家族等の協力を得つつ、臨機応変に支援している。緊急時等、24時間対応可能な体制を整備している。医療機関や家族等と情報共有を図り、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に利用者の心身状態を報告している。介護職員と連携を取りながら健康管理や医療面での相談、助言、対応してかかりつけ医とも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、医師、看護師から心身状態の情報を得て連携を図っている。状態変化がみられた時には家族様に報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階で、重度化や終末期のあり方について利用者や家族様に説明をし同意を得ている。	事業所では、契約時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における方針について説明し、意向を確認している。利用者の心身状況の変化に応じて、意向を再確認している。適宜、AED使用方法等の研修を実施している。医療機関と連携し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル等で看護師の指導のもと、緊急時の技術を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間の火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。また、近隣住民等から協力を得ることができるよう努めている。	事業所では、年2回、日中と夜間における火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議で地域住民へ協力を依頼している。居室入り口には、利用者の歩行状況がわかるような表示を行っている。また、備蓄品を整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーを尊重した支援に努めている。本人の行動を制止せず、見守ることを心掛けている。	職員は、利用者とのコミュニケーションを大切に捉えている。日ごろの会話のなかで、自己決定できる機会を設けている。トイレ介助やオムツ交換の際には、必ずドアを閉めるなど、プライバシーに配慮している。また、日ごろの支援において、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう職員間で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話を心掛け、思いが伝えにくい利用者様には、表情等を見ながら個々の希望が引き出せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムがある為、マイペースでゆったりと穏やかに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着を職員と一緒に選んだり、その人らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人で調理したものを提供している。利用者様の個々にあった食事形態(刻み食、ミキサー食、とろみ)を提供している。利用者様と共に食事の準備等を行っている。	事業所では、利用者の好みを反映した食事を提供している。炊飯や汁物の調理を行い、五感刺激に配慮している。利用者には、台拭き等、できることで役割を担ってもらっている。誕生日には、利用者の希望のものを提供したり、事業所の畑で栽培した野菜や果物を活用したりして、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が作成した献立で食事提供している。毎日の食事、水分量をチェックして状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアや義歯洗浄を実施している。できるだけ自身で行って頂き、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間も個別の状況にあわせた支援を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さり気ないトイレ誘導を行っている。日中は、パターンに応じて、可能な限りトイレでの排泄を支援している。夜間は、利用者の心身状況に応じて、負担感なく排泄できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として運動、水分補給、腹部マッサージを行っている。それでも、排泄がない場合は、便秘薬服用や看護師による洗腸を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回できるよう支援している。入浴を拒否される利用者様については、別の日に変え無理強いすることなく入浴支援している。	事業所では、週2回の入浴ができるよう支援している。利用者の希望に応じて、同性介助や入浴回数を増やすなど、工夫している。入浴中は、歌を歌ったり、職員と会話したりして、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、日中、体操や歩行練習等を行い活動量を増やし、昼夜逆転しないような工夫に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者別に既往歴、処方内容、副作用等のファイルがあり、情報をもとに心身の状態や副作用を理解し、確実に服薬できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、出来ることや得意なことを行ってもらい、楽しく生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、事業所の周りを散歩するなどして、気分転換を図っている。利用者の希望に応じてドライブに出かけ外出支援に取り組んでいる。	事業所では、気候の良い日に、近隣の散歩に出かけている。少人数のドライブで、桜や菊などの季節の花見に出かけている。病院受診の際に寄り道するなど、家族の協力を得つつ、希望にそった外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を自身で行える方がいないが、御家族からの預り金で好きな物をお聞きし購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事業所の電話使用介助を行っている。掛かってきた時は、その都度取り次ぎ等行い、家族様との関係を大切にできるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には、利用者と一緒に作成した季節の作品を飾りつけ季節を感じる工夫をしている。共用空間は、日当たりがよく日向ぼっこをされたりしている。	共用空間は、明るく、清潔感がある。利用者とともに作成した、折り紙や塗り絵等の作品を飾り、季節を感じることができるよう工夫している。ホワイトボードには、その日の献立を記載するなど、楽しさを提供している。歩行しやすいように家具配置を工夫している。また、定期的に換気を行ったり、空気清浄機を設置したりして、感染症対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	作品等を展示したり、ソファや椅子を置き少人数でも談話できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の写真を持ち込んだり、利用者様が書かれた塗り絵等を貼って、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた家具や調度品、家族の写真等を持ち込んでもらっている。塗り絵等、利用者の作品を飾り、居心地良く、温かみのある空間づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を畳んだり等、少しでも自立した生活が送れるように支援している。居室やトイレが認識にくい方に対しては貼り紙をする等して分かりやすい工夫をしている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内に掲示し、毎朝申し送りの際に唱和し職員間で共有を図っている。新採用職員にも理念を伝え、実践に繋げるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、ボランティアの受け入れ等をし地域との交流をしていた。馴染みの美容師に来訪して頂き、訪問美容をお願いし交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や施設見学に来られた方に、事業所の取り組みや認知症ケアについて説明を行い、理解が得られるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では、運営推進会議は2カ月に1回書面で実施していたが、4月からは対面で行っている。出された意見は、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市の窓口を訪問して、事業所や利用者状況を伝えたり助言を得る等協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束の弊害について話し合い拘束しないケアに取り組んでいる。日中は、ユニットの自動ドアを開放し、自由な暮らしの支援に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で理解を深め、虐待が見過ごされないように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で勉強会を行ったりして理解を深め、利用者様が必要な時には活用できる支援も実施している。当事業所にも、制度を利用している利用者がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約を結ぶ時や改定の時には、丁寧に説明をし、内容を理解した上で同意が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所では、日頃の支援のなかで利用者からの意見や要望を聞き取っている。家族様には、電話やお便り等で利用者の様子を報告した際に意見をj得ている。又、窓口には意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃の支援のなかで職員の意見や要望を聞き取っている。事務長の来訪時には職員が直接意見などを伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は個々に目標を立て、実践し達成できるように努力している。職員の資格取得を応援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はコロナ禍であまり参加できなかったが、研修後はミーティングで発表したり報告書にて全員で閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所や外部同業者との交流や運営推進会議で交流する機会を作り、意見や経験をケアに活かして取り組むように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で、利用者の不安や困っていることを理解し、生活状態を把握し、安心してより良い信頼関係が築けるよう努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に、ご家族様と密に連携を図り、安心して要望等が言え、次の段階の相談へ繋げるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、御本人様、御家族様が何が必要なサービスであるかを見極め、柔軟な対応ができるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を築き、安心して穏やかな生活が送れるように努めている。利用者の特技を活かし、個々の得意分野で力を発揮して頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や家族様が来訪された際に、何でも話ができる雰囲気を作り、職員と家族様が協力して一緒に支える関係が築けるよう努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関での面会ではあるが、利用者の家族様や親戚の方が来訪した際は、話が出来よう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格を把握し、入居者様同士のコミュニケーションが円滑に図れるように、座席の配置に気を配っている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族の方の相談にも応じたり、新たな入居先(施設)にもサービスが円滑に行えるよう情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向等の把握に努めている。意思表示が困難な場合には、家族様から生活歴を伺いつつ本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで、本人様の基本情報や家族様からの情報をもとに自分らしく暮らしていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェック等を行い健康状態を把握している。利用者一人ひとりの生活リズムも把握し、本人様の出来ることに重点を置いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族様等の意見を踏まえた介護計画を作成している。半年ごとの見直しや心身状態の変化に応じて見直し、共有化を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルがあり、日々の申し送りを通して情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週2~3回院長の訪問があり、健康チェック等を行っている。本人様の心身状態や家族様の状況により、臨機応変なサービス支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍では、地域との交流は行えていない。運営推進会議に参加して頂くことで、地域の情報や運営に関する助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診する際は、家族様の協力を得ている。医療機関との連携を図り、緊急時にも対応可能な医療体制を整備している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に利用者の心身状態を報告している。介護職員と連携を取りながら健康管理や医療面での相談、助言、対応してかかりつけ医とも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、医師、看護師から心身状態の情報を得て連携を図っている。状態変化がみられた時には家族様に報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階で、重度化や終末期のあり方について利用者や家族様に説明をし同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル等で看護師の指導のもと、緊急時の技術を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間の火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。また、近隣住民等から協力を得ることができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさや言葉のかけ方等を工夫し、プライドを傷つけることがないようにさりげないケアを実践している。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話を心掛け、思いが伝えにくい利用者様には、表情等を見ながら個々の希望が引き出せるようにしている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれが望まれる過ごし方や希望に沿うよう心掛けている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着を職員と一緒に選んだり、その人らしい身だしなみができるように支援している。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人で調理したものを提供している。利用者様の個々にあった食事形態(刻み食、ミキサー食、とろみ)を提供している。利用者様と共に食事の準備等を行っている。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が作成した献立で食事提供している。毎日の食事、水分量をチェックして状態を把握している。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアや義歯洗浄を実施している。できるだけ自身で行って頂き、清潔保持に努めている。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間も個別の状況にあわせた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として運動、水分補給、腹部マッサージを行っている。それでも、排泄がない場合は、便秘薬服用や看護師による浣腸を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴できるよう支援している。便失禁があった利用者様は入浴、シャワー浴を行い清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、落ち着ける環境を整えよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、各自のファイルに綴じている。飲み忘れや間違いがないようダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、出来ることや得意なことを行ってもらい、楽しく生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、事業者の周りを散歩するなどして、気分転換を図っている。利用者の希望に応じてドライブに出かけ外出支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を自身で行える方がいないが、御家族からの預り金で好きな物をお聞きし購入している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事業所の電話使用介助を行っている。掛かってきた時は、その都度取り次ぎ等行い、家族様との関係を大切にできるように努めている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールには季節を感じて頂けるような空間づくりをしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	作品等を展示したり、ソファや椅子を置き少人数でも談話できるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に塗り絵や作品を貼ったり、ベッドの配置等を工夫して孤独や不安を感じることはないように支援している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を畳んだり等、少しでも自立した生活が送れるように支援している。居室やトイレが認識しにくい方に対しては貼り紙をする等して分かりやすい工夫をしている。			